

2018
10月号

原水協通信

国連NGO原水爆禁止日本協議会

毎月1回6日発行

頒価 220円

電話 (03)5842-6031

FAX (03)5842-6033

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-2-4



原水爆禁止大阪府協議会 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第3ビル210号 tel(06)6765-2552 fax(06)6765-2837

沖縄県知事選 玉城氏圧勝! 県民が一つになった勝利!!



玉城デニー氏当選を報じる「赤旗」10月1日付

当選	玉城デニー	58歳	39万6632
	佐喜真 淳	54歳	31万6458
	兼島 俊	40歳	3638
	渡口 初美	83歳	3482

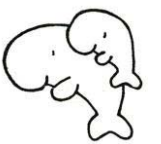
安倍政権が官邸主導に加えて公明党、維新、希望と応援団をとらなっても選挙戦に党派をこえた支援をうけた玉城デニー氏が歴史的な沖縄県知事選挙に勝利しました。

大阪からも多くの仲間が直接沖縄に入って支援しただけでなく、大阪の地でも宣伝行動、電話かけ、カンパや寄せ書きなどで玉城知事誕生に貢献しました。

以下、沖縄原水協の佐事務局長からのお礼メッセージが大阪原水協に届けられました。

「ここに紹介します。今回の最大の争点は「辺野古新基地建设問題」でした。そして、「少しは基地もやむを得ない」と思っている人でも、「これ以上の新しい基地はつくらせない」と、まとまった結果だったと思います。更に官邸が乗り込んできたことに県民の怒りが燃え上がりました。勝てると思えないほどの激しい選挙に勝つて本当にうれしいです。大阪をはじめ、全国から様々な支援をいただいたことに心から感謝しています。まだまだ闘いは続きますが、これからもよろしくお願いします。」

被爆者の願い、核兵器禁止条約に賛成を!
沖縄県民の声、辺野古には基地はいらない!



大阪原水協は9月度の常任理事会で「(3)沖縄知事選挙勝利、新基地建设ストップへ」を当面の課題としてカンパと寄せ書きを沖縄原水協におくりました。

原水協加盟の大阪平和委員会では、名護市内の「ひやみかち うまんちゆの会大東」に結集し、玉城デニー候補の勝利に貢献しました。

告示前から大阪平和の福山常任理事が沖縄に行かれ窓口となつて奮闘しました。上羽事務局長も告示日から事務所を詰めて裏方の役割を担いました。

八尾平和委員会のメンバーは、9月12日、レンタカーに分乗して沖縄の最北の村、国頭村へ。3、4人のグループに分かれ集落ごとに配布しました。百数十枚のビラ配布を3時間、真夏並みの暑さの中、汗びっしょりの大奮闘です。「美味しいから、持って行って、みんなで食べちゃおう」と昔からデニーファンのオバアから、娘さんが「ともにチバラヤー」と言つて果物を持たせてくれた、など感動的な経験をしてこられました。さらに沖縄支援エピソードを紹介しつづけます。

① 歯科保険医協会Nさん
那覇と名護に2回8日間行ってきた。相手は創価学会が数千人、国会議員が200名以上来ているという姿が見えず、不安で名護では勝てる気がしなかった。デニーさんの「打ち上げ宣伝」には、隣に三色旗を持った人も参加していて台風にあおられて倒れそうになったので、私もそれを支えて一緒に三色旗を掲げるという珍事になった。(笑)

② 西淀川平和委員会Nさん
最終版に台風の中をかるうじて二泊三日で支援に行った。雨が横から吹きつける中を電話作戦に取り組んだ。「台風は大丈夫ですか?」と声をかけながら、「台風も大変だけど選挙も大事だから」と呼びかけると、多くの人が「投票に行ってきたサー」「入ってきたサー」との反応があり、棄権防止で最後まで頑張つて勝つて本当にうれしい。

③ 堺平和委員会Fさん
8月25日〜9月30日まで支援に入った。前半は、吉井候補と一緒に名護で街頭宣伝を行ったが、彼の母親も参加して勝利に貢献できた。投票開票日当日8時過ぎ、相手

日時 10月27日 1時30分〜

場所 大阪グリーン会館

講師 眞鍋 穰氏



【国連軍縮週間のとりくみ】

毎年恒例の国連軍縮週間のとりくみは、今年度は被爆者医療に関わりノーモアヒバクシャ訴訟に重要な役割をはたしておられる医師の眞鍋穰先生に記念講演を行ってまいります。先生はノーベル平和賞を受賞したICANの中心的役割を果たしているIPPNW(核戦争防止国際医師会議)のメンバーとしても国際的な活動もされています。

陣営の事務所へ行ったが電灯は半分消えていた。写真を撮つたら、事務所から出てきた大柄な男たちに囲まれ「写真を返せ」とすぐまれパトカーも駆けつける騒ぎになった。警官同士が、自分のことを「50〜60代の男」と言っているのを聞き、若く見られていて嬉しくなった(笑)

50万筆突破!

ヒバクシャ国際署名(9月30日現在)

505,426 筆





9・26国連「核兵器廃絶デー」で「ヒバクシャ国際署名」推進 大阪で50万筆突破！（9月末）、100万筆に向かってGO！

被爆75年にあたる2020年を核兵器禁止・廃絶の歴史的転換点にするために、「ヒバクシャ国際署名」を世界で数億をめぐっています。全国では830万筆、403筆の到達です。

大阪でも50万筆を突破し、今年中に100万筆を達成する。大阪商工団体連合会は、24229筆を集約しています。各単位民商では、会員さんに「ヒバクシャ国際署名」「憲法3000万署名」「消費税増税中止署名」をセットにしてとりくんでいます。

右は民医連作成の「ヒバクシャ国際署名」ハガキ付のチラシです。現在民医連は56697筆を集約しています。新婦人は12万3374筆を集め、大阪の牽引車となっています。



筆を目標としています。国連「核兵器廃絶デー」の9月26日、大阪原水協は天王寺平和委員会などの協力をえて、上本町で署名宣伝活動をおこないました。（写真）

憲法3000万署名は、大阪で145万筆に到達しています。被爆国日本の大多数の国民は、「核兵器はいらない」の声を賛同しています。2020年に向けて「ヒバクシャ国際署名」のとりくみをすすめてみましょう。

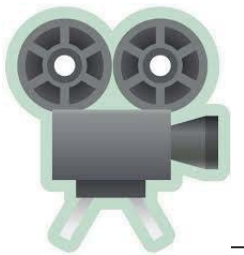
国際的にも、この9月26日に新たに7カ国が調印国とな

核兵器禁止条約批准国（2018年9月末現在）

ガイアナ・タイ・バチカン・メキシコ・キューバ・パレスチナ・ベネズエラ・パラオ・オーストリア・ベトナム・コスラリカ・ニカラグア・ウルグアイ・ニュージーランド・クック諸島・ガンビア・サモア・サンマリノ・ヴァヌアツ 以上19カ国

年末12月に計画されています。「核兵器なき世界へ」映画とトークのつどいを成功させましょう。つどいの企画が確定したものを紹介します。

り、翌27日さらに2か国が増えて合計69カ国。また批准国は、9月4日のクック諸島に続いて4カ国が国連に提出し19カ国となっています。



上映作品

核兵器 なき 世界へ

映画とトークのつどい

日時 12月1日（土）13：30～20：00

場所 エルおおさかホール

共「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」
催「12.1 核兵器なき世界へ・映画とトークのつどいを成功させる会」
参加協力費1000円（障がい者、高校生以下無料）

『NAGASAKI 1945アンゼラスの鐘』

被爆した長崎浦上病院で働いていた医師・秋月辰一郎氏の著書を参考文献として制作された長編作品。2007年10月25日には日本政府国連代表部、国連軍縮部、NGO 軍縮の共催でニューヨークの国連内での上映が実現しました。多くの資料のもと視覚的にリアルに再現された原爆投下の様子は、戦争・死・放射能の恐怖と共に「平和の尊さ」と「核兵器の廃絶」を強く訴えます。俳優の小林桂樹さんがナレーターとして参加、筑紫哲也さん、吉永小百合さんなど多くの賛同・支援により完成した作品です。上映時間80分 監督＝有原誠治さん（講演）

『ヒロシマの記憶～幻の原爆フィルムで歩く広島』（字幕）

1945年、原爆が投下されて2か月。焦土の風景と苦しむ被爆者は日本人の手によって撮影されました。当時、日本映画社のスタッフが撮影したフィルムには治療を受ける人々や医師と看護師、焼きつくされた建物、ガレキに埋まる町の様子が映し出されています。このフィルムは1946年「広島・長崎における原子爆弾の効果」という映画となって海を渡り、米軍の教材になりました。

『アオギリにたくして』（字幕付き）

「アオギリの語り部」と呼ばれ、広島平和記念公園にある被爆したアオギリの木の下で子どもたちに被曝体験を語り続けた被爆者の故・沼田鈴子さんをモデルに、原爆で片脚を失い、婚約者にも「アオギリの語り部」と呼ばれ、広島平和記念公園にある被爆したアオギリの木の下で子どもたちに被曝体験を語り続けた被爆者の故・沼田鈴子さんをモデルに、原爆で片脚を失い、婚約者にも戦死されてしまった女性が、絶望のどん底から這い上がり、平和の語り部として生きる決意を抱いた姿を描いた人間ドラマ。主演女優＝斉藤とも子さん（講演含む）